

1. 原稿の種類

原著を原則とし、和文、英文のいずれでもよい。

2. 用紙

和文原稿の場合はA4判用紙を使用し、縦置きとする。

英文原稿の場合は、A4判または国際版（216×280mm）の用紙を使用する。

3. 原稿紙数

和文、英文ともに刷り上り10頁以内とする。

4. 原稿の作成方法

1) 表紙（1ページ目）

a. 和文原稿の場合

日本語での表題と著者名、英語での表題と著者名、日本語での所属およびその所在地、英語での所属およびその所在地、日本語でのランニングタイトルを、この順に従って書く。

なお、著者の所属の表記には、筆頭者以外の共著者が所属を異にする場合は共著者およびその所属名の冒頭に * さらには** 印をつける。

b. 英文原稿の場合

英文での表題と著者名、日本語での表題と著者名、日本語での所属およびその所在地、英文での所属およびその所在地、英文でのランニングタイトルを、この順に従って書く。

なお、著者の所属の表記には、筆頭者以外の共著者が所属を異にする場合は共著者の右肩およびその所属名の冒頭に * さらには** 印をつける。

2) Abstract（2ページ目）

和文、英文いずれの原稿の場合にも、英文の Abstract（研究目的、方法、結果および結論を理解できるような200語以内の概要）を記載する。Abstractの下には、3～5語のキーワードを、和文原稿の場合には日本語および英語で、英文原稿の場合には英語のみで記載する。

3) 本文（3ページ目～）

和文原稿の場合は、一段が25字×45行の二段組で作成する。

原則として平仮名は現代仮名使いとし、漢字は常用漢字とする。外国語、外国固有名詞、化学物質名などは原語とし、外来語、動植物名などはカタカナ、数詞は算用数字の使用を原則とする。

英文原稿の場合は、一段の1行がおおよそ50字となるようにし、以下は和文原稿の場合に準ずるものとする。イタリックを必要とする場合は、目印にアンダーラインを引く。

4) 和文の要旨（英文原稿のみ）

英文原稿の場合は、400字以内の和文の要旨（研究目的、方法、結果および結論が理解できるもの）を原稿末尾に記載する。要旨は一段組みで作成し、要旨の下に、3～5語の日本語のキーワードを入れる。

5) 単位および単位記号

国際単位系、メートル法を基準とする。

6) 項目の区分

a. 大項目

前後を1行あけ、行の中央に記載する。

原著論文の緒言 (Introduction), 材料 (Materials), 方法 (Methods), 結果 (Results), 考察 (Discussion), 註 (Notes), 引用文献 (References) などが相当する例である。

b. 小項目

以下の順で使用する。

1., 2. ...行の第1字目に記す。

1), 2) ...行の第2字目に記す。

a., b. ...行の第2字目に記す。

a), b) ...行の第3字目に記す。

7) 註

註が必要な場合には、本文中の該当箇所右肩に ¹⁾ のように上付き文字で順を記し、本文、謝辞の後、文献の項目の前に一括掲載する。

8) 引用・参考文献

a. 引用方法

a) 邦書洋書を問わず、原則として、下記のように本文中に著者名・発行年・引用頁を挿入する。

例) 久保はAについて、制度学派の立場から批判している (久保 2004:21-23).

例) 久保 (2004:21-23)はAについて、制度学派の立場から批判している。

b) 引用する文献が一箇所につき複数にわたる場合は、以下のいずれかの方法で記載する。

例) Aについては制度学派の立場から様々な批判が展開されている(久保 2004:21-23 および 鈴木ら 2007:15-16).

例) Aについては制度学派の立場から様々な批判が展開されている(黒田 2002; 久保 2004; 鈴木ら 2007).

c) 文章を直接引用する場合は、本文中に引用箇所を一重カギ括弧でくくる形を用いる。

なお、引用文中に一重カギ括弧が使用されている場合はその箇所を二重カギ括弧にかえる。

例) 田中によると、「Bは『X理論』の主張を読み違えている」(田中 2006:11).

d) 翻訳書から引用する場合は、(Jessop=2005:218) あるいは Jessop (=2005:218) のように翻訳書の発行年の前に等号を挿入する。

b. 文献の記載方法

a) 文献はアルファベット順に配列し、原稿末尾に二段組みで、1文献ごとに改行し、一括記載する。

b) 著者名の記載は和名欧名を問わず、姓名の順に記載することを原則とする。

c) 同一著者の複数の文献がある場合は、出版年の古い順に並べる。

d) 同一著者の複数の文献が同一出版年である場合は、(新川 2002a), (新川 2002b), (新川 2002c) というように、出版年の後にアルファベットを付記して並べる。

例) 新川敏光(2006)「カナダにおける医療と介護の機能分担と連携」『海外社会保障研究』156, 59-74.

————(2007a)「比較の中の日本型社会保障レジーム——家族主義から自由主義へ」『社会福祉研究(鉄道弘済会社会福祉部)』99, 62-69.

————(2007b)「脱福祉国家時代の社会権」『現代思想』35(11), 118-130.

e) その他、文献の記載方法については、以下の形式に従うものとする。

ア. 邦文文献

ア) 単著文献の場合

著者名(発行年)『書名(タイトル——サブタイトル)』出版社名.

例) 馬場康彦(2007)『生活経済からみる福祉——格差社会の実態に迫る』ミネルヴァ書房.

イ) 共著文献の場合

著者名は、筆頭から3名までの名前を記載し、それ以上は「ほか」と表記する.

文献上の著者順(発行年)『書名(タイトル——サブタイトル)』出版社名.

例) 佐藤滋正・佐藤俊幸・篠田武司ほか(2007)『市民の社会経済学』八千代書房.

ウ) 編書の場合

編者名(発行年)『書名(タイトル——サブタイトル)』出版社名.

例) 橋木俊詔編(2004)『リスク社会を生きる』岩波書店.

エ) 編書論文の場合

論文著者名(発行年)「論文名」編者名『書名』出版社名, 論文初頁-終頁.

オ) 雑誌論文の場合

論文著者名(発行年)「論文名」『掲載雑誌あるいは紀要名』巻(号), 論文初頁-終頁.

※雑誌・紀要名だけでは発行元がわかりにくい場合, 発行元の名称も表記する.

例) 吉井 哲(2007)「スラッファ体系と需要」『経済学研究(北海道大学大学院経済学研究科)』57(2), 111-124.

カ) 翻訳書の場合

原典の書誌情報.(=翻訳出版年, 訳者名『訳書タイトル』出版社名.)

※原典の書誌情報の記載方法については, 後述の英文文献の記載方法に従うものとする.

例) Marshall, T. H. and Bottomore, T. (1992) Citizenship and Social Class, Pluto Press. (=1993, 岩崎信彦・中村健吾訳『シティズンシップと社会階級——近現代を総括するマニフェスト』法律文化社.)

キ) 政府刊行物の場合

編集機関名(発行年)『タイトル(〇〇年版)』出版社名.

ク) ウェブサイト上の情報の場合

著者名(公表年あるいは最新更新年)「当該情報のタイトル」(URL, 最終アクセス年月日).

例) 厚生労働省(2007)「年金記録に対する信頼の回復と新たな年金記録管理体制の確立について(進捗状況)」(<http://www.sia.go.jp/top/kaikaku/kiroku/070831shintyoku.htm>, 2007年12月3日).

イ. 英文文献

ア) 単著の場合

著者のファミリーネーム, ファーストネーム, ミドルネーム(出版年) タイトル: サブタイトル, 出版社名.

※タイトルおよびサブタイトルはイタリック体にするか、もしくは下線を引く。
※※ファーストネーム、ミドルネームはイニシャルのみでもよい。その場合は、イニシャル(ピリオド)とする(以下、同じ)。

例) Robson, W. A. (1976) Welfare State and Welfare Society, Allen & Unwin.

イ) 共著の場合

ファーストオーサーのファミリーネーム、ファーストネーム、ミドルネーム and 共著者のファミリーネーム、ファーストネーム、ミドルネーム (出版年) タイトル: サブタイトル, 出版社名.

※著者名は筆頭から3名まで記載し、それ以上は「et al.」と表記する(以下、同じ)。

例) Esping-Andersen, G. and Gallie, D. and Hemerijck, A. et al. (2002) Why We Need a New Welfare State, Oxford Univ Pr.

ウ) 編書の場合

編者名の後に、編者が1名の場合はed. 複数の場合はeds.を付記する。

例) Edgar, B. and Doherty, J. eds. (2001) Women and Homelessness in Europe, The Policy Press.

エ) 書籍掲載論文の場合

論文タイトルおよびサブタイトルは「 ” (ダブルクォーテーション)」でくくり、書籍のタイトルおよびサブタイトルはイタリック体にするか、もしくは下線を引く。

例) Bauman, Z. (2000) “Social Uses of Law and Order, Garland, ” D. and Sparks, R. eds., Criminology and Social Theory, Oxford University Press.

オ) 雑誌論文の場合

論文タイトルおよびサブタイトルは「 ” (ダブルクォーテーション)」でくくり、雑誌名はイタリック体にするか、もしくは下線を引く。

例) Visier, L. (1998) “Sheltered Employment for Persons with Disability, ” International Labour Review, 137(3), 347-365.

c. その他

図書紀要委員会が認めた場合に限り、執筆者は当人の所属学会等で規定されている引用法や文献記載方法など、上記 a. および b. 以外の形式に従うことができる。なお、この場合、執筆者は原稿に所属学会等の規定に従っていることを記載し、投稿時に当該引用法や文献記載方法が記載されている執筆要領の複写などを図書紀要委員会に提出しなければならない。

9) 図表

a. 図表の作成

図(写真を含む)および表は、図ごと、表ごとに、通し番号をつける。図表は、直接写真製版ができる完全な原図として作成し、本文中に組み入れる。図表の幅は、一段分の幅および二段分の幅のいずれかとする。

b. 図表の配置と説明文

図表は、原則として本文中に組み入れる。

図表を本文中に組み入れることが困難な場合は、挿入箇所を余白にて示し、【図 1 挿入】のような表示を余白内に入れる。その場合、図表は、必ず一つずつ A4 版用紙に作成し、論文原稿の末尾に置く。図表を別紙で作成する場合、明瞭でそのまま印刷できるものとする。

図(写真を含む)のタイトルおよびその注(出典含む)は図の下に入れ、表のタイトルは表の上に、

その注（出典含む）は表の下に入れる。

10) 倫理的原則に関する事項等

人が対象である研究に関しては倫理委員会，動物が対象である研究に関しては動物実験委員会，遺伝子・組換え実験を含む研究に関しては遺伝子・核酸組換え実験安全委員会の承認を得，その旨を本文中に明記する。

利益相反に関わる可能性がある研究においては，利益相反審査会の承認を得，その旨を本文中に明記する。

5. 原稿等の提出

1) 提出物は，以下の通りとする。

- (1)原稿正本：1部
- (2)原稿コピー：1部
- (3) 投稿票：1部
- (4) チェックリスト：1部

2) 電子メディアの提出

和文，英文原稿ともに，図書紀要委員会による受理後，コンパクトディスク等の電子メディアを提出する。メディアには，筆頭者氏名，ランニングタイトル，作成 OS およびソフト名を明記する。

原稿は，原則として Microsoft Word で作成し，一つのファイルとして保存する。図表を除いたテキストファイルも作成し添付する。図表等で一つのファイルにまとめることができないときは，TIFF，JPEG 等のファイル形式で保存したものを添付する。

6. 校正

校正は，原則として著者が行い，再校までとする。校正での訂正は，誤字と脱字を修正する程度にとどめ，内容の変更や追加・削除，図表の変更は認めない。なお，校正原稿は図書紀要委員会で定めた期日までに必ず担当事務局に返却する。

附則

この執筆要項は平成20年 4月 1日より施行する。

附則

この改正執筆要項は平成21年11月 1日より施行する。

附則

この改正執筆要項は平成22年 6月16日より施行する。

附則

この改正執筆要項は平成27年 4月 1日より施行する。

附則

この改正執筆要項は平成28年 4月 1日より施行する。